## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019年2月23日作成)

中央委員会名   空間研究小委員会   空間研究小委員会   空間研究小委員会   対照   対照   対照   対照   対照   対照   対照   対			(2019 午 2 月 25 日 [F)及/		
接条計画委員会   建築計画委員会 (計画基礎連宮員会)   主 査 名:山田 哲弥   主 査 名:山田 哲弥   2016 年 4 月 ~ 2020 年 3 月   ・空間を体感し、空間を学ぶ (新たな空間研究に向けて) 初年度: 新規活動方針の検討、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催 (年3回程度 ) ミニ研究会の開催 (随時) 2 年度: 事例収集、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催 (年3回程度 ) ミニ研究会の開催 (随時) 3 年度: 事例収集に基づく情報交換、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催 (年3回程度 ) ミニ研究会の開催 (随時) 3 年度: 事例収集に基づく情報交換、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催 (年3回程度 ) ミニ研究会の開催 (随時 ) 年度: 活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催 (年3回程度 ) ミニ研究会の開催 (随時 ) 要員公募の有無: 無   2 校   長名   大変   大変   大変   大変   大変   大変   大変   大	小委員会名	空間研究小委員会			
・空間を体感し、空間を学ぶ(新たな空間研究に向けて)初年度:新規活動方針の検討、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)2年度:事例収集、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)3年度:事例収集に基づく情報交換、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(基立・研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(基立・研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(基立・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(基立・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(第1位度)・「全間研究会の開催)、年間で発達・新市環境学系、「本学院工学研究科」東京電機大学 工学部建築学科 生薬工学研究科 東京工業大学 別造・工学研究科 東京工業大学 創造工学部 一選集工学研究科 東京工業大学 別境・十七会工工学院建築学系 早稲田大学 人間科学学術院 建築学系 早稲田大学 人間科学学・部居住環境学科 東本学院大学 工学部 環境建設工学科 小山工業高等専門学校建築学科 大東文化大学 環境創造学部 和歌山大学 規光学部 地域再生学科 教室間探示の「空間」研究分野について、他分野も含めた専門家や研究者による横断的な視野での討論会、定談置 WG (WG 名:目的) 第2日 一部で入りまれた空間研究小委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究の外委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究の外委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究の外委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究が外野における研究内集を、広く社会に公表するために出版物の刊行企画で行い「空間研究」のサン伝えることを目的とする。		建築計画委員会(計画基礎	(海安百全)		
・空間を体感し、空間を学ぶ(新たな空間研究に向けて)初年度:新規活動方針の検討、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)2年度:事例収集、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)3年度:事例収集に基づく情報交換、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時)4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(を3回程度)ミニ研究会の開催(原時)を負公募の有無:無  「企職名」氏名 「主査」郷田 桃代 「全職の事とが、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(海球、大学間が完全の開催)、「関する調査・研究活動。公開研究会の開催、「年3回程度)ミニ研究会の開催、「原理研究、事理理大学、工学部建築学科・大業工業大学 制造工学部 環境建設工学科・大会工業が会社工学の研究を関係の主要に対して、他分野も常のたま、これらを含めた広義の「空間」研究分野について、他分野も含めた専門家や研究者による横断的な視野での討論会、定談置、WG (WG 名:目的)  「設置 WG (WG 名:目的)  「空間研究調査が析方法 WG:主に空間研究小委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究小委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究の外野における研究机要を表えることを目的とする。  2018 年度 予	設置期間	2016年4月			
	設 置 目 的	・空間を体感し、空間を学ぶ(新たな空間研究に向けて) 初年度:新規活動方針の検討、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時) 2年度:事例収集、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時) 3年度:事例収集に基づく情報交換、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミニ研究会の開催(随時) 4年度:活動のまとめ、「空間研究」に関する調査・研究活動。公開研究会の開催(年3回程度)ミ			
設置 WG た広義の「空間」研究分野について、他分野も含めた専門家や研究者による横断的な視野での討論会、 座談会を企画し実施することを目的とする。 空間研究調査分析方法 WG:主に空間研究小委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究分野における研究成果を、広く社会に公表するために出版物の刊行企画を行い「空間研究」の魅力を伝えることを目的とする。 135 000 円 ホームページ公開の有無:		世界名 氏名	東京理科大学 工学部建築学科 名古屋大学大学院 工学研究科 東京電機大学 理工学部 建築・都市環境学系 千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 名古屋工業大学 大学院工学研究科 東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 早稲田大学 人間科学学術院 熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 東北学院大学 工学部 環境建設工学科 小山工業高等専門学校 建築学科 大東文化大学 環境創造学部 和歌山大学 観光学部 地域再生学科		
1 7018 仕世 予官		新空間探求WG:建築空間および都市空間を内部空間、外部空間という視点でとらえ、これらを含めた広義の「空間」研究分野について、他分野も含めた専門家や研究者による横断的な視野での討論会、座談会を企画し実施することを目的とする。 空間研究調査分析方法 WG:主に空間研究小委員会の活動および関連研究の研究者、他分野の研究者等によって蓄積された空間研究分野における研究成果を、広く社会に公表するために出版物の刊行企			
	2018 年度予算	135 000 PH 1 :			

項目	自己評価	
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)	
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1.新規出版「空間五感」(仮) 企画中 2.「空間体験」改訂版 企画中	
講習会	1. なし	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	<ul> <li>1. 第84回研究会「ソーシャルアクティビティが生みだす地域の空間再生」参加者数67名 (資料名)ソーシャルアクティビティが生みだす地域の空間再生</li> <li>2. 第85回研究会「『つながる』と『はなれる』から考える新しい『はたらく場』の展望」参加者数39名 (資料名)『つながる』と『はなれる』から考える新しい『はたらく場』の展望</li> </ul>	
大会研究集会	1. なし	
対外的意見表明・パブリッ クコメント等	1. なし	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 研究会開催は2回実施された。複数件が企画中である。(計画:年2回予定) 2. ミニ研究会は4回実施された(計画:随時) 3. 委員会は5回開催される予定である(計画:年5回予定)	
委員会活動の問題点 ・課題	空間研究小委員会の活動を出版という形で広く社会に公表するよう活動している。現在、新規の出版を企画中で魅力ある著書にすることが課題である。一方、新規企画の著書が委員会設置期間内で公表できない場合がある。速やかな公表が実現できるよう当小委員会でも努力と工夫をするが、学会の手続きの簡素化(改訂版の著書の場合など)にご協力いただきたい。	